

厚木市男女共同参画市民意識調査結果から～理想に近づくためのキーワードは『と・も・に』～

ともに助け合い、ともに進もう！ 男女共同参画社会は次のステップへ

男女共同参画社会の実現を目指して、平成15年3月に“厚木市男女共同参画計画”が策定されてから10年が経過します。その間、実現に向けての様々な取組をしてきましたが、市民の男女共同参画に対する現在の意識はどのように変化し、また、何が求められているのでしょうか？

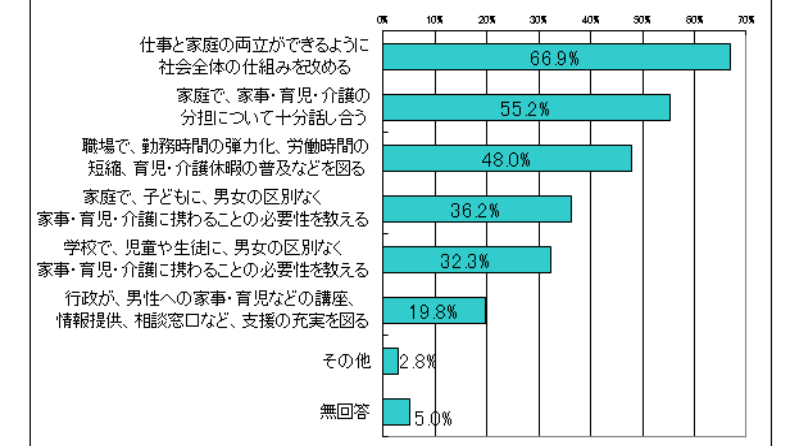
今回は、平成23年に実施した、「厚木市男女共同参画市民意識調査」の結果を基に、男女の家事分担の『現実』と『理想』を比較し、今後、理想に向けてどうあるべきかを考えてみました。



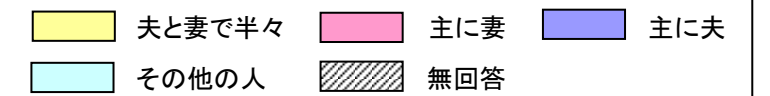
厚木市男女共同参画市民意識調査

調査対象	満20歳以上の市民
対象者数	3,000人(無作為抽出)
調査方法	郵送法
調査機関	平成23年10月20日～11月4日
回収結果	有効回収数 1,280人 有効回答率 42.7%
【性別】	女性59.4% 男性39.1% 無回答1.3% その他0.2%
【年齢】	20代(11.6%) 30代(17.1%) 40代(19.9%) 50代(20.8%) 60代(19.1%) 70以上(9.2%)

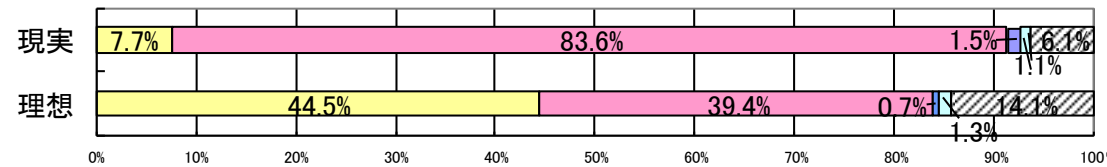
協力して家事分担するために必要なことは？



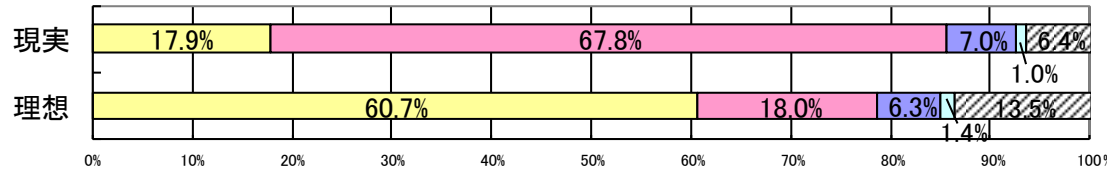
家事分担の『理想』と『現実』の状況～8項目の役割分担の比較から～



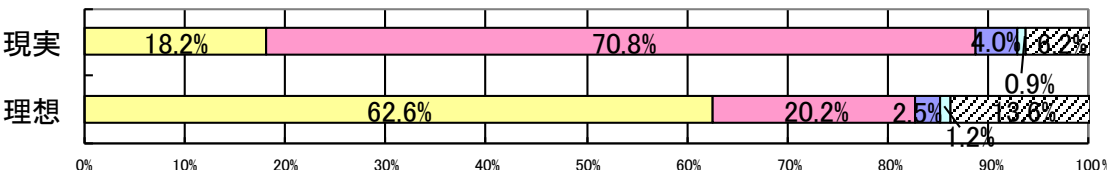
食事のしたく



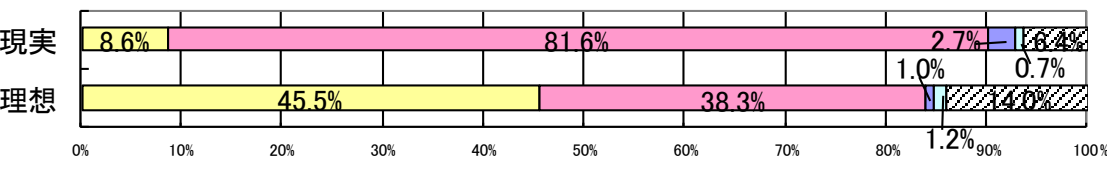
食事の片付け



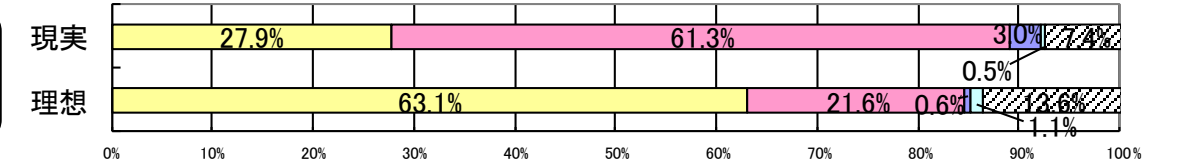
掃除



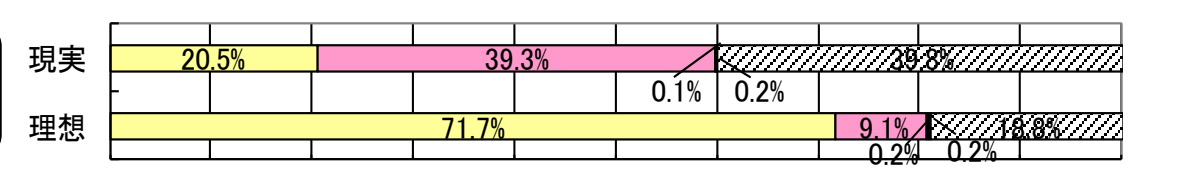
洗濯



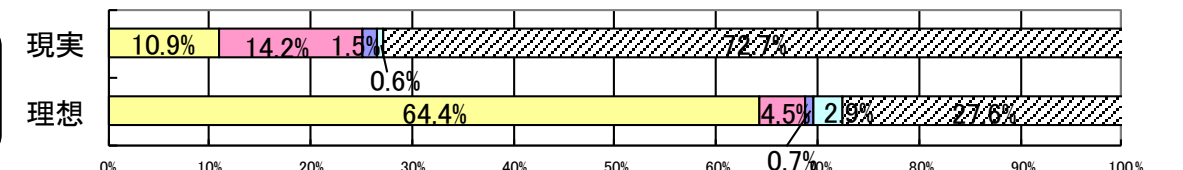
買い物



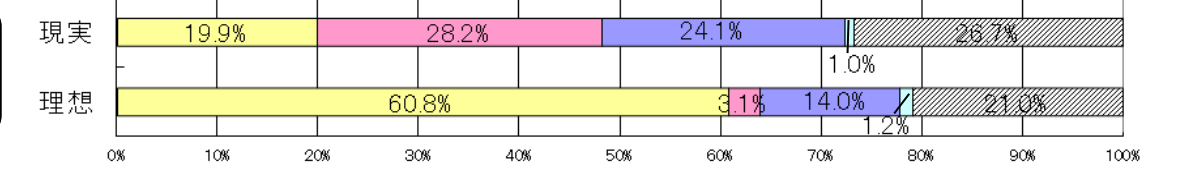
子育て



介護



地域活動(自治会等)



★★★市民意識調査結果の検証★★★

意識調査の結果から、家事分担は「夫と妻で半々」が理想であることがわかりました。しかし、現実には、食事のしたくや洗濯は「主に妻」の割合が高く、男性の参加の割合が低いことがわかります。一方で子育てや買い物は「夫と妻で半々」の割合が20%以上と家事分担の中では、男性が参加していることがわかりました。それでも家庭での役割分担は、まだまだ女性が担っている部分が多く、理想に向けた意識の改革や啓発が必要であると改めて感じました。

「男女共同参画社会」の認知度についてはかなり知られてきました。しかし、意識の変化をみると理想と現実にはまだまだ大きな差があるのも事実です。

では、実現のために必要なことは何でしょうか？ それは、性別にとらわれず、“お互いを理解し、ともに助け合うこと”だと思います。そして、それにはお互いの歩みよりが必要だと考えます。
みなさんも、もう一度、“ともに助け合う”という意味を考えて、身近なことから始めてみてください。